

市テスト（佐伯市評価規準診断テスト）小5・小6・中1・中2・中3

佐伯市では、市内の小学校5年生から中学校3年生までの全児童生徒を対象とし、小学生は平成25年1月10日(木)・11日(金)に、中学生は平成25年1月9日(水)に、市が独自に作成した問題で「佐伯市評価規準診断テスト」を実施しました。

【実施教科】

小5, 6年 …国語、社会、算数、理科の4教科
 中1, 2, 3年 …国語、社会、数学、理科、英語の5教科

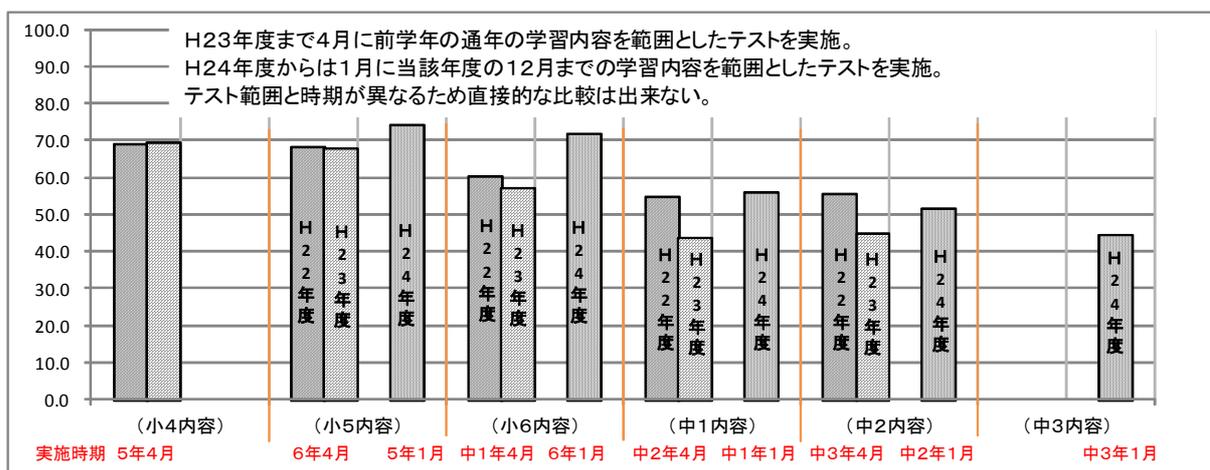
【実施内容】

国語、社会、算数・数学、理科、英語の各教科の問題
 生活習慣や学習習慣等に関する生活アンケート調査

【用語解説】

- ※正答率：児童生徒が正答した問題数の割合（%） … 平均値
- ※達成率：目標値を上回った児童生徒数の割合（%）
- ※目標値：児童生徒に到達してほしい基準。目標とする点数の意味合い。
- ※目標とする達成率：佐伯市では各教科とも80%以上の達成率を目標としている。

【学年別の結果について】・・・平成21年度～平成24年度の達成率(学年全体)[%]の変化



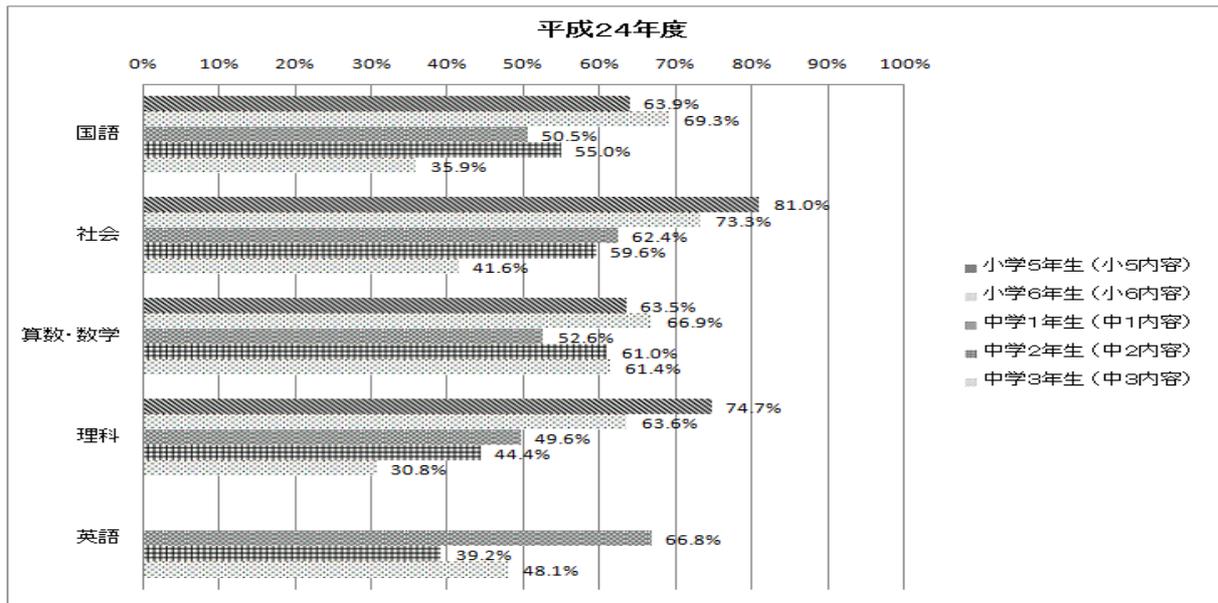
※目標値（設定通過率の教科合計）を「上回る」「同程度」と考えられる学年別児童生徒の割合（%）

※H23年度までは4月に前学年の通年の学習内容を範囲としたテストを実施してきましたがH24年度からは1月に当該年度の12月までの学習内容を範囲としたテストを実施しているため、直接的な比較は出来ません。

○小学校では、70%程度の児童が、中学校では、概ね40%～50%程度の生徒が評価規準（学年の目標値）を「上回る」または「同程度」と考えられます。

○教科別に見ると、小学校では全ての教科において60%以上の児童が評価規準（教科の目標値）を上回るか同程度となりました。他方、中学校ではいずれの教科においても、50%を下回った学年がありました。例年、各教科では、学年が上がるにつれ、教科の目標値に対する達成度が下がる傾向が見られます。中学校では、短答式でなく「文章による記述」で解答する問いを増やしていることに加え、児童生徒が苦手としている「表とグラフを対応させたり、表やグラフから読み取れることは何かを問う」や「複数の資料を組み合わせることで解答を求めたり、読み取れることは何かを問う」、「資料をつかって考える」等の問題を多く設定した教科が多いことが要因のひとつとして考えられます。各教科等で、言語活動や読書活動等の充実を図り、情報の取り出し、理解、熟考、表現までを含めた力をつけていくことが一層求められます。

【教科別・学年別の結果について】・・・平成24年度の教科・学年別達成率[%]



※各教科の設定通過率を「上回る」または「同程度」と考えられる児童生徒の割合 (%)

H24年度		小学5年生 (小5内容)	小学6年生 (小6内容)	中学1年生 (中1内容)	中学2年生 (中2内容)	中学3年生 (中3内容)
	国語	63.9%	69.3%	50.5%	55.0%	35.9%
社会	81.0%	73.3%	62.4%	59.6%	41.6%	
算数・数学	63.5%	66.9%	52.6%	61.0%	61.4%	
理科	74.7%	63.6%	49.6%	44.4%	30.8%	
英語			66.8%	39.2%	48.1%	

H23年度		小学5年生 (小4内容)	小学6年生 (小5内容)	中学1年生 (小6内容)	中学2年生 (中1内容)	中学3年生 (中2内容)
	国語	48.9%	59.1%	41.9%	49.0%	36.8%
社会	61.5%	63.5%	44.1%	31.4%	17.5%	
算数・数学	82.0%	57.9%	66.4%	53.0%	46.3%	
理科	52.1%	70.5%	65.4%	50.7%	35.6%	
英語				53.1%	61.1%	

H22年度		小学5年生 (小4内容)	小学6年生 (小5内容)	中学1年生 (小6内容)	中学2年生 (中1内容)	中学3年生 (中2内容)
	国語	63.6%	67.2%	41.9%	38.0%	36.8%
社会	59.8%	63.0%	81.5%	65.8%	70.5%	
算数・数学	82.0%	57.9%	59.5%	53.0%	65.4%	
理科	52.1%	82.0%	39.8%	50.7%	38.8%	
英語				59.3%	61.1%	

○前回調査を実施した時の学年が2学年前となるので、小学校では今回の調査結果と比較することはできません。中学校各学年で、目標値を上回った・同程度となった児童生徒の割合を、前回の調査時の数値と比較すると、国語、社会、数学で若干の減少、理科で大きく減少しています。前述したように、理科では特に「情報の読み取り・熟考・表現」を意識した問題が多数出題されるようになってきたことや内容や考察が高度になること等が影響していると思われます。

○新教育課程が実施され、各教科では、基礎的・基本的な知識や技能の習得とそれらを活用し、思考・判断・表現する力の育成が求められています。4月以降、前学年の学習内容について、定着が不十分な部分については補足的な学習等の手立てを計画的に講じたり、螺旋状の学習計画をより意識したりする等、いまの学年での基礎的・基本的事項の確実な定着を図るための足がかりを固めることが必要です。また、あわせて、情報の取り出し、理解、熟考、表現といったプロセスを意識しながら、言語活動を取り入れ単元構想を見直すなど、児童生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくむための取組が必要です。

